

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		6,537	t-CO ₂
（温室① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素ス 換排 算出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		6,537

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	4.16	/台	3.91	/台	3.935	/台		/台
削減率（対基準年度）			6.0 %		5.4 %		%	
原単位当たりのみなし排出量					2.43	/台	/台	/台
削減率（対基準年度）			%		41.6 %		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新規受注に伴いラック増設するも本格運用前という事で、稼働率が低く電気使用量が増えなかった事が要因。
来年度以降、稼働率が増えると削減率が下がる見込みだが、効率的な運用をする事で削減率を維持する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践 通信機器	①休廃止設備の早期通電カット ②省エネ機器へのリプレース	電気使用量で -2%	電流値をモニタリングすることで、サーバ設備設備の消費電流を適正管理。
省エネルギー・省資源の行動の実践 冷暖房	①建物改修にあわせた省エネ型空調機への更新 ②機器発熱量に合わせた機械室の冷房運転 ③チャレンジ25で取組む事務所冷房運転温度	電気使用量で -3%	キャッピング、エアフローの効率的な運用管理。 事務所冷房温度28度設定遵守。
省エネルギー・省資源の行動の実践 照明	①建物改修にあわせたHf蛍光灯への取替え ②不要な照明の消灯	電気使用量で -0.5%	LED照明の導入 昼休み等の消灯運動実施
省エネルギー・省資源の行動の実践 OA機器	①不使用時の電源OFF（EMS環境項目） ②コピー機の節電モードの活用と退社時の電源OFF	電気使用量で -0.5%	OA機器の節電モード利用 帰宅時の電源OFF コロナ対応での在宅勤務により OA機器の節電
省エネルギー・省資源の行動の実践 上水道	①空調機エネカット水量・噴霧時間・頻度等の見直し ②水冷式空調機の更改	水道使用量で -1%	状況に応じたエネカット設備の運用（必要ない場所はOFF）
省エネルギー・省資源の行動の実践 可燃ごみ	①きめ細かな分別の実施 ②コンビニ等の持込ごみの削減	-1%	エコバックの利用を推進しコンビニごみの削減

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度		(2030年度)	
使用電気全体に占める非化石電気の比率	55.6	%		%		%	100	%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
非化石証書		2,500 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

2,500	t-CO ₂
-------	-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

	日
--	---

指針第 2 号様式

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ① 最終退社時にOA機器の電源OFF実施
- ② 空調設備等の更改時に、省エネ機器の採用。
- ③ 社有車の利用を控え、公共交通機関を利用。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

特に無し